

自分の発した言葉が自らを裁くことになる

マタイによる福音書 12 : 36~37

言っておくが、人は自分の話したつまらない言葉についてもすべて、裁きの日には責任を問われる。
あなたは、自分の言葉によって義とされ、また、自分の言葉によって罪ある者とされる。

私たちは日々、数えきれないほどの言葉（文章を含む）を発しています。何気なく口にする冗談やつぶやき、怒りや不満から出た言葉、人を励ます言葉もあれば、時には誰かを傷つける言葉を発し、取り返しつかない事態を招いてしまう場合もあります。

しかし、イエス・キリストは厳かにこう言われました。「人は自分の話したつまらない言葉についてもすべて、裁きの日には責任を問われる」。これは、ただの道徳的な注意ではありません。私たちの言葉に対する、永遠の命に関わる重大な警告なのです。

ヨハネによる福音書 3 : 16

神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命（≡イエス・キリストを信じることで始まる命）を得るためである。

そして、イエスは「あなたは、自分の言葉によって義とされ、また、自分の言葉によって罪ある者とされる」と語ります。これはつまり、私たちの言葉には人格が現れ、信仰の真実が試されるということです。神の前では、隠れた思いや感情もすべて明らかにされ、口にした一つひとつの言葉が天にある記録の書に記録されているのです。

マラキ書 3 : 16

そのとき、主を畏れ敬う者たちが互いに語り合った。主は耳を傾けて聞かれた。神の御前には、主を畏れ、その御名を思う者のために記録の書が書き記された。

私たちは、他者を生かす建設的な言葉、神を賛美する言葉、真実と愛に満ちた言葉を語るべきなのです。使徒パウロも「悪い言葉を一切口にしてはなりません」と語り、言葉が人を築き上げ、恵みを与えるものであるべきだと教えています。

エフェソの信徒への手紙 4 : 29

悪い言葉を一切口にしてはなりません。ただ、聞く人に恵みが与えられるように、その人を造り上げるのに役立つ言葉を、必要に応じて語りなさい。

しかし私たちは、時に感情に流され、軽率な言葉を発してしまいます。そのような時は、神の前に悔い改めて神様に赦しを乞い、心と言葉を清めていただく必要があります（ただし、発した事実一言一語は天の記録の書に天使たちによって正確に記され、ある時まで残り、保存される）。

詩編に「わたしの口の言葉が御旨にかなない、心の思いが御前に置かれますように」とあるように、私たちも日々、言葉の大切さを祈り求めて歩みたいと思います。

詩編 19 : 15

どうか、わたしの口の言葉が御旨にかなない／心の思いが御前に置かれますように。主よ、わたしの岩、わたしの贖い主よ。

私たちの言葉には力があります。創造の力、癒しの力、時には破壊の力も持っています。だからこそ、イエスは言われました。「言葉によって義とされ、また、自分の言葉によって罪ある者とされる」と。

今一度、この御言葉を心の板に刻みたいと思います。

人前で語る前に祈り、語るときに愛を持ち、語った言葉には責任をもつ者でありたいと切に思います。